

◆「俳句のまち～いしかり～」第13回俳句コンテスト入選作品◆

*選者 小西 龍馬 氏(北海道俳句協会顧問) 一般応募総数 133 作品
横山 いさを 氏(縦俳句会代表)

1. 天位(1点)	砂嘴統ぶる石狩灯台雲の峰	石狩市	樋口 博
2. 地位(5点)	灯台の螺旋階段大西日 はまなすの丘に古びし句碑あまた 朝に日に祈る灯台天高し 潮鳴や灯台かすめ岩燕 磯菜摘む白燈台を背に負ひて	喜茂別町 石狩市 札幌市 石狩市 札幌市	佐藤 ココ 坪田 正光 久慈 澄子 樋口 博 小野 美恵子
3. 人位(15点)	玫瑰や灯台守の忠魂歌 石狩の灯台の燈か実玫瑰 夏の蝶連れて灯台巡りかな 百年を知るや灯台島渡る 灯台の霧笛や母の声に似て 雲の峰灯台置きて砂嘴伸びる 灯台は砂丘の墓標すすき漕ぐ 婦省子に更けて灯台なほ白し 天地消し石狩灯台冬怒涛 灯台を目指して歩む夏帽子 灯台は希望の標鳥渡る 玫瑰や灯台守の慰霊の碑 灯台の砂嘴まだ暮れず実ほまなす 春ショール灯台守のシネマかな 灯台は母の眼差し冬の海	石狩市 石狩市 石狩市 福島町 札幌市 歌志内市 小樽市 蘭越町 札幌市 ニセコ町 札幌市 札幌市 登別市 札幌市 古平町	赤繫 忠弘 赤繫 忠弘 小玉 富士子 藪内 映泉 芝崎 秋水 横山 冬青 伊藤 玉枝 石坂 寿鳳 猪俣 総恵 巾下 正子 藤林 正則 藤林 正則 袖山 功 和田 伯遊 渡辺 嘉之
4. 佳作(20点)	はまなすや灯台にまず迎へられ 石狩は母の故郷花林檎 灯台が足もとに置く月見草 浮雲を水面に映し水芭蕉 灯台に恋の伝言良夜かな 灯台は海の白墨花サビタ 灯台は暁の色なり鳥雲に 婦省して昼灯台の秘密基地 灯台の昼を気ままに夏の蝶 灯台の光芒一閃すすき原 灯台や次つぎ戻る盆の船 夏草に灯台の影鷲の空 灯台の道はでこぼこ透かし百合 灯台をみて腰のばし防風揃む 灯台の光芒揺れる虎落笛 燈台の風裏かへし青芒 灯台の閃光つむ深き海霧 灯台や砂嘴に咲きたる実玫瑰 灯台を描く良い子の夏帽子 あげひばり見守る燈台石狩浜	石狩市 函館市 東京都 雨竜町 山形県 遠軽町 洞爺湖町 札幌市 札幌市 札幌市 札幌市 江別市 札幌市 札幌市 札幌市 札幌市 石狩市 石狩市 石狩市 石狩市	幸地 加代 大江 流 野村 信廣 有田 茉莉 菊地 みさ子 宮坪 勝美 矢野 知子 星 徳男 星 徳男 佐藤 憲子 板本 敦子 川元 玲子 関 千寿子 菊地 勝弘 菊地 勝弘 齋藤 季美 曳地 理子 棚橋 文男 小林 昭子 笠原 泰江

◆第12回こども俳句コンテスト入選作品◆

応募総数 2,643 作品

*選者 赤繫 忠弘 氏(石の花俳句会代表) 五十嵐 満行 氏(石狩翹吟社)
曳地 理子 氏(石狩文芸同好会) 笹谷 雅子 氏(石狩文芸同好会)

【小学生の部】

優秀賞(10点)

太鼓の音夏の夜空に鳴り響く	紅南小6年	干場 妃莉
つうがくるほほをくすぐる初夏のかぜ	緑苑台小5年	相田 真希
とう台のあたりがでらすさけのむれ	緑苑台小6年	笠井 絆愛
桜咲き希望と夢があふれてる	花川小4年	丸山 沙彩
新学期いろとりどりのランドセル	花川小6年	宮本 奏月
春にはね一年生がやってくる	南線小4年	吉田 圭汰
弁当にありがちよこちよ登ってる	南線小5年	一條 大輝
あぶないよどっちへいこうスイカわり	聚富小3年	乗木 蓮華
こいのぼり家族みんなで空食べる	聚富小5年	吉野 来飛
たんぼぼのはなでつくったくびかさざり	生振小1年	ふじた ゆあ

【中学生の部】

優秀賞(10点)

じっと持つぼくのゆび先赤とんぼ	花川中1年	木村 文哉
八月は忘れてならぬ記念日が	花川中2年	岩浪 叶
春の空煙たなびく浅草寺	花川中3年	徳田 大哉
ぼかぼかと夢見ごちな春の朝	花川中3年	松永 爽
新緑の香り漂う建長寺	花川中3年	岩井 師馬
桜舞う向こうに赤いランドセル	花川中3年	臼井 彩七
大好きだ言えずに散った夏の恋	花川北中1年	工藤 悠
悩む日々どこか似ているおぼろ月	樽川中3年	小野寺 るな
冬の海白波寄せる厚田港	厚田中1年	岩見 元
風鈴のどこかさみしい音を聴く	厚田中3年	河野 淋梧